教育実践論文

知的障害特別支援学校小学部における
イメージを広げて主体的に活動する児童の育成
－「A 組なつまつり」の生活単元学習を通して－

廣瀬　優佳里*　・　小柳　浩貴*　・　小野　真智子*　・　松山　郁夫**

Cultivation of Students who Expand Their Image and Actively Engage in Activities in the Elementary Department of Schools for the Intellectually Disabled
:Through the Lifestyle Unit-based Learning of "Class A: Natsu Matsuri Festival"

Yukari HIROSE ，Hiroki KOYANAGI，　Machiko ONO，　Ikuo MATSUYAMA

【要約】知的障害特別支援学校小学部の低学年の学級における生活単元学習「A 組なつまつり」に取り組んだ。単元を通して，児童の興味・関心を授業に取り入れていくための手立て，授業テーマに関する児童のイメージを豊かに広げていくための手立て，児童が自分のイメージや思いを基に，主体的に活動するための手立てを明らかにすることができた。

【キーワード】　興味・関心，好きなものリスト，イメージ，主体的な学び，対話的な学び

1. 実践目的

本校では,令和4年度より知的障害教育における「思考力，判断力，表現力」の育成に焦点を当て校内研究を進めている。今年度は授業研究を中心としてグループ研究を進めている。

筆者らは,「イメージを広げて表現する児童生徒の育成～好きなことから始めてみよう～」をテーマとするグループで授業研究を進めている。本稿では，小学部1，2年生学級における生活単元学習「A 組なつまつり」を通して，次の3点について明らかにしていくことを目的とする。

1点目は児童の興味･関心があることを授業に取り入れていくための手立てについて,2点目は授業テーマに関する児童のイメージを豊かに広げていくための手立てについて,3点目は児童が自分のイメージや思いを基に，主体的に活動するための手立てについて探っていく。

2. 実践内容

(1) 夏祭りに関するアンケート調査

単元の計画に向けた準備として，まず，児童の夏祭りの経験がどの程度あって夏祭りをイメージをもっているのかどうかを把握するため，保護者を対象にアンケ―ト調査を行う。

(2) 他クラスで行われる夏祭りの生活単元学習への参加

本学級の児童が夏祭りの活動のイメージをもつことができるように，単元前に小学部3，4年生のＢ組及び5，6年生のＣ組の生活単元学習に参加する。

(3) 好きなものリストの作成

児童が意欲的に活動することをねらい，単元計画の段階から，児童生徒の興味・関心を活動内容に盛り込むこととした。興味・関心を探るために，児童生徒一人一人に「好きなもの・こと」調査を行い「好きなものリスト」を作成する。

(4) 主体的な学びとするための授業内の手立ての工夫

「好きなものリスト」を活用して児童の興味・関心を活動内容等に取り入れるとともに，児童が考えたり選択したりして，自分の思いを表現できる場面を複数設定する。

(5) 対話的な学びとするための授業内の手立ての工夫

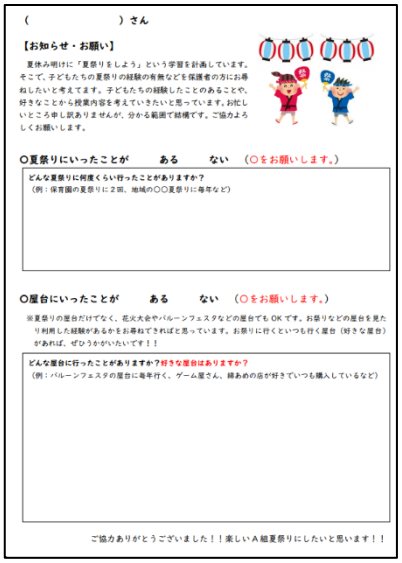
単元計画段階から，児童が教師や友達と一緒に活動する場面を設定することに加え，やりとりを通して，自分の思いや考えを表出し，相手の思いや考えを受け止めることができるような支援を行う。

3. 実践結果

＊佐賀大学教育学部附属特別支援学校
＊＊佐賀大学教育学部

(1) 夏祭りに関するアンケート調査

児童の夏祭りの経験等に関する保護者アンケート（図1）を実施した。


（　　）さん

【お知らせ・お願い】

夏休み明けに「夏祭りをしよう」という学習を計画しています。そこで、子どもたちの夏祭りの経験の有無などを保護者の方にお尋ねしたいと考えてます。子どもたちの経験したことのあることや、好きなことから授業内容を考えていきたいと思っています。お忙しいところ申し訳ありませんが、分かる範囲で結構です。ご協力よろしくお願いします。

○夏祭りにいったことが　ある　ない　（○をお願いします。）

どんな夏祭りに何度くらい行ったことがありますか？
（例：保育園の夏祭りに２回、地域の○○夏祭りに毎年など）

○屋台にいったことが　ある　ない　（○をお願いします。）

※夏祭りの屋台だけでなく、花火大会やバルーンフェスタなどの屋台でもOKです。お祭りなどの屋台を見たり利用した経験があるかをお尋ねできればと思っています。お祭りに行くといつも行く屋台（好きな屋台）があれば、ぜひうかがいたいです！！

どんな屋台に行ったことがありますか？好きな屋台はありますか？
（例：バルーンフェスタの屋台に毎年行く、ゲーム屋さん、綿あめの店が好きでいつも購入しているなど）

ご協力ありがとうございました！！楽しいＡ組夏祭りにしたいと思います！！

図1　児童の夏祭り経験等に関するアンケート

回答結果からは，感染症流行の影響からか，夏祭り参加の経験の差が大きいことが分かった。経験の少ない児童については，経験させたいと思っている保護者が多いことが読み取れた。

(2) 他クラスで行われる夏祭り単元への参加

A 組の単元が始まる前に，C 組で「夏祭り」単元が実施され，A 組の児童は出店のお客として参加した。夏祭りには遊びの出店があるというイメージが印象付けられた様子で，教室に戻ってから「A 組でも夏祭りしたいな」「〇〇やさんしたいな」と伝える児童が多かった。

図2　C 組の夏祭りにお客として参加する様子

単元が始まってからではあったが，B 組の「夏祭り」にもお客として参加した（図3）。

図3　B 組の夏祭りにお客として参加する様子

本学級の児童は，お客として参加して夏祭りの楽しさを味わい，自分達も楽しい夏祭りにしたいという気持ちが芽生えた様子だった。そこで，A 組の夏祭りを「にこにこ A 組なつまつり」と呼んで，自分達もお客さんもにこにこになる夏祭りを目指すこととした。

(3) 好きなものリストの作成

グループ研究を進めるにあたって，まず「個別の教育支援計画」から「児童・生徒の好きなもの」を一覧として抜き出した（表1）。学級の特徴として，体を動かすことと音楽を聴くことが好きな児童が多いことが分かった。

表1　好きなもの・こと「個別の教育支援計画」から

	好きなもの・こと	赤 体を動かす	青 絵・塗り絵	緑 音楽、ダンス等	黄 キ
Dさん	・YouTubeを見ること　・ダンス　・ピアノのおもちゃ			○	
Eさん	・歌　・ダンス　・ピアノ　・TVを見ること			○	
Fさん	・YouTubeで動画を見ること　・出かけること（ドライブ）　・乗り物（働く車）を見ること			○	
Gさん	・歌うこと　・踊ること　・お絵かき　・人と関わること　・手伝い、仕事	○	○	○	
Hさん	・外遊び　・水遊び　・体を動かすこと　・家族で外出すること ・バルーン　・電車	○			
Iさん	・アンパンマンを見ること　・YouTubeで恐竜を見ること　・音楽に合わせて自由に体を動かすこと　・歌を歌うこと　・簡単な手伝いや仕事	○		○	

これまでの学校生活から本学級の児童の好きなものの広がりが感じられたことや，本単元の学習内容と関わりの深い事柄についての興味・関心をもっと深く探るべきではないかと考え，選択カードを準備して（図4），一人一人に好きなものを聞き取り，「好きなものリスト」として再整理した（表2）。

図4　選択カードを利用した調査の様子

表2　新版「好きなものリスト」

好きなもの		色	遊び	キャラクター
Dさん	個別の教育支援計画から	青	ブロック	○○えもん
	選択カードから	青	ブロック、音楽を聞く、お絵描き、ままごと、パズル、字を書く、塗り絵、絵本	○○えもん、○○オン、○○○だん、○○わん、○ーマス、○○チュウ、○○○ンマン
Eさん	個別の教育支援計画から	紫	鉄棒	○○チュウ、○○えもん、○ーマス、○○○ンマン、
	選択カードから	ピンク、赤	アイロンビーズ、滑り台、ブランコ、ままごと、お絵描き	○○チュウ、○○えもん、○ーマス、○○わん
Fさん	個別の教育支援計画から	水色	滑り台	○ーマス
	選択カードから	青	滑り台、アイロンビーズ、ブロック	○ーマス、○○リン、○○わん
Gさん	個別の教育支援計画から	紫	滑り台	○○チュウ
	選択カードから	青、水色、紫、緑	滑り台、ブランコ、ブロック、ままごと、粘土、塗り絵、パズル	○○チュウ、○○○ンマン、○○○だん
Hさん	個別の教育支援計画から	緑	滑り台、ブランコ	○○○ンマン
	選択カードから	黒	ブランコ、ままごと、鉄棒、絵本、トランプ	○ッキー、○○○だん、○○モン
Iさん	個別の教育支援計画から	黒		○○リン
	選択カードから	黒、青	鉄棒、トランプ、音楽を聞く	○○リン、○○チュウ、○○キンマン、○○○だん、○○トラマン

単元計画においては，多くの児童が好きな，歌うことやダンス・体を動かすことを学習活動に取り入れることとし，盆踊りやお神輿の活動を取り入れることを考えた。さらに，人との関わりを好む児童が多いので，お客さんとのやりとりのあるお店屋さんをすることとした。また，それぞれの児童が好きな色やキャラクターを会場の飾り作りやお神輿作りに生かすこととした。

以上のことを踏まえ，単元計画を作成した（表3）。

表3　「A 組なつまつり」単元計画

小学	A	年・組	生活単元	科・学習 単元計画

期間	8 月 29 日 (火) ～ 5 年 9 月 15 日 (金)
場所	小学部A組教室及びプレイルーム
対象	小学部A組6名
指導者	T1 廣瀬優佳里、T2小柳浩貴、弘瀬由紀菜

1単元名	A組なつまつり

2単元の目標

○ 友達や教師と一緒に、準備から当日までお店屋さんの役割を果たすことができる。	（生）
○ 自分の役割に合った言葉や表現等を知り、あいさつをしたり、簡単な台詞を言ったりすることができる。	（国）
○ 簡単なルールのあるゲームに、順番やきまりを守って参加することができる。	（生）
○ 夏祭りのイメージをもとに表したいことを思い付き、絵を描いたり形をつくったりすることができる。	（図）

3単元の計画　17時間

次	時	活動内容	指導内容（教科学部段階）
1	1	○なつまつりをすることを知る。 ○A組なつまつりでやってみたいことを考える。 ・どんなことをしようかな？ ・どんなお店にしようかな？	○日課・予定（生 小1、2） ○聞くこと・話すこと（国 小1、2）
2	1～11	○まつりの準備 ・盆踊り練習 ・看板づくり ・教室の飾り作り ・みこしづくり ・お店の準備① ・招待状づくり・配布	○役割（生 小1、2） ○人との関わり（生 小1、2） ○聞くこと・話すこと・書くこと（国 小1、2） ○表現（図 小1、2） ○数と計算（算 小1、2） ○遊び（生 小1、2） ○表現（音 小2）
3	1～4	○A組なつまつり ・先生を招待しよう!!① ・先生を招待しよう!!② ・B組さんを招待しよう!! ・C組さんを招待しよう!!	○役割（生アイ 小1、2） ○人との関わり（生アイ 小1、2） ○聞くこと・話すこと（国 小1、2） ○数と計算（算 小1、2） ○遊び（生 小1、2） ○表現（音 小2）
4	1	○ふりかえり ・単元のふりかえりと思い出シートづくり	○A 表現（図アー（イ） 小1、2） ○A 聞くこと・話すこと（国イウ 小1、2） ○B 書くこと（国アイ 小1、2）

グループ研究では，意欲的に児童が活動に取り組むことができるように単元の導入を工夫することが議論された。そこで，教師主導で活動内容を設定するのではなく，児童と話し合って決定していくこととした。そのための授業を1次目として設定した。

授業ではまず，「夏祭りって何だろう」のテーマを設定し，画像を使って夏祭りの一般的なイメージを伝えるようにした。次に，昨年度の夏祭りの生活単元学習や，今年度 C 組の夏祭りの学習にお客として参加したことを，画像を見ながら振り返った。「ぼく，知ってる。」「おもしろかった。」など，自分の経験や気持ちと照らし合わせながら，夏祭りのイメージを膨らませる様子が見られた。

活動内容を決定するにあたっては，児童の好きなことを生かす活動として「ぼんおどり」「おみこし」「おみせやさん」「かんばん（作り）」「かざり（作り）」を提示し，取り組みたい活動に児童が自分の写真を貼る活動をした（図5）。ほとんどの児童が，どの活動にも貼っていた。自分が貼らなかった活動についても，友達がやりたいと思っていることが分かり，「ぼくもしたい。」と伝えていた。

後日の授業研究会では活動内容が多すぎたのではないかという意見も挙がったが，この第1次の授業の中で，児童がどの活動にも興味を抱き「やってみたい。」という思いをもったことから，本単元においては，すべての活動を取り入れることとした。

図5　写真を貼って活動を選択する様子

さらに，何の「おみせやさん」を開くかについて，いくつかの選択肢を準備して，児童が選ぶようにしたところ，「ボウリングや」と「わにわにパニックや」の2つを行うことが決定した（図6）。

図6　写真を貼って何の「おみせやさん」を開くか選択する様子

(4) 主体的な学びとするための授業内の手立ての工夫

第1次の授業を経て，児童一人一人が夏祭りのイメージをもつことができていたため，どの活動にも意欲的に取り組み始めていた。

好きなキャラクターの塗り絵を塗って提灯の型に貼り付けて飾りを作るようにしたところ，ほとんどの児童が意欲的に活動に取り組んでいた。絵本をもってきて本物そっくりに塗ろうとする児童もいた（図7）。また，休み時間や家に持って帰って取り組む児童もいた。「A 組なつまつり」の単元期間中は教室をその提灯で飾っておくようにしたところ，他クラスの教師を連れてきて，自分や友達の作った飾りを紹介する姿が見られた。

図7　塗り絵でかざりを作る様子

お神輿は，ほとんどの児童が好きな機関車のキャラクターをモチーフに作成した。普段なかなか集団の中で活動することが難しい児童も，興味をもち，みんなと同じ場で制作活動をすることができた（図8）。

図8　みんなでおみこしを作る様子

機関車からイメージを膨らませ，煙突から出る煙を作る児童がいた。その児童は煙に「ポッポー」と教師に書いてもらって，貼っていた。教師に「おもしろいね。」など褒められると，うれしそうな表情をしていた。車輪なども付け加えていた。

「おみせやさん」では，プレイルームに自分達で看板やお店の道具を持っていき，お店の準備をするところから始めた（図9）。

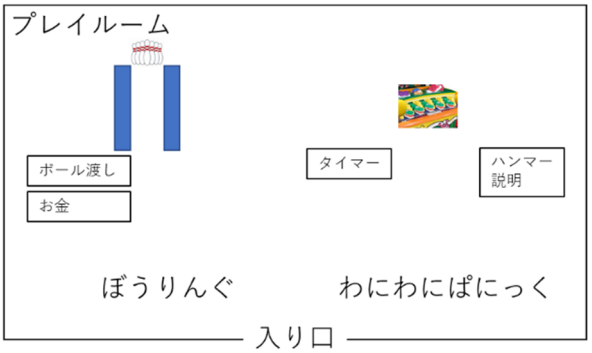


図9　「おみせやさん」の配置図

お客さんを招く前に，チームでそれぞれ役割分担して，お店の練習を重ねた。お互いのチームがお店屋さんとお客さんになって交互に練習し合った。「わにわにぱにっくや」では，お金受取係，ハンマー渡し＆ルール説明係，ワニ出し係をそれぞれ担った。「ぼうりんぐや」では，お金受取係，ボール渡し係，ピン立て係をそれぞれ担った。初めはボウリングのピンを立てることが難しい様子も見られたが，立てるための補助具を準備すると，自分から取り組むことができるようになった（図10）。

図10　補助具を使ってピンを立てる様子

また，初めはお金の受け取りなどが難しかった児童も，レジの模型を準備したところ，興味をもち活動に参加できるようになった（図11）。

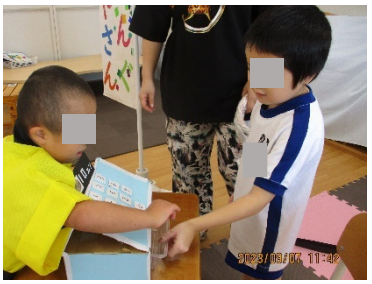


図11　レジの模型を使って練習する様子

(5) 対話的な学びとするための授業内の手立ての工夫

お店屋さんとして役割分担してお客さんをもてなす前に，看板作りや必要な道具作りやお店設置なども，友達や教師とやりとりをしながら準備ができるよう，チームで行うようにした。制作では友達にシールを貼ってほしいところを指さしながら声をかけ（図12），お店設置では，「そっち，持って。」などど声を掛け合いながら，大道具を一緒に運ぶ姿が見られた。

図12　チームでボウリングレーン作りをする様子

「おみせやさん」の練習に繰り返し取り組むうちに，自分だけでなく，友達の役割にも意識を向けることができるようになってきたことから，友達の手伝いを自分からするように

なった児童もいた。

お客さんを招くことについては，まず，誰を招待するかを一緒に考える時間を設けた。普段かかわりのある教師や，B組やC組の友達の名前が児童から出された。招待状作りを行う際は，誰に向けて作成しているか意識しやすいように，顔写真を準備するようにした。一人一人が「〇〇さん（先生）」への招待状を作り，直接手渡しに行った（図13）。

図13　作成した招待状を手渡す様子

「A組なつまつり」本番では（表4），「にこにこ」をキーワードとし，「お客さんがにこにこになる夏祭りにしよう。」と画像も用いながら，言葉掛けを行うようにした（図14）。

表4　「A組なつまつり（お客さんをまねこう）」指導略案

本時の目標

○ 友達や教師と一緒に、お店屋さんの役割を果たすことができる。	（生）
○ 自分の役割に合った言葉や表現等を思い出し、あいさつをしたり、簡単な台詞を言ったりすることができる。	（国）

時間	学習活動	指導・支援
	・休み時間にプレイルームにお店の準備をしてハッピを着る。	・お店ごとにプレイルームに移動し、お店の準備や着替えをするように言葉かけを行う。 ・児童が考えて準備ができるように、会場準備用の写真を提示したり、用具の場所に印をつけたりしておく。
11:10	1 はじめのあいさつをする。	・日直に号令をするよう促し、全員が姿勢を正してあいさつできるよう必要に応じて言葉かけを行う。
11:11	2 前時の振り返りを行い、本時の活動内容やめあてを確認する。	・前時の学習の様子を写真で提示し、振り返りを行い、本時取り組むことを確認する。 ・お客さんをニコニコするためにみんなで頑張ることを確認する。
	おきゃくさんが ニコニコになる なつまつりにしよう!!	
11:20	3 はちまきをつける。 ●廊下に移動する。	・はちまきをつける際に、「手伝ってください」と伝えることができた児童がいた場合は手伝う。 ・はちまきをつけることで、お店屋さんを頑張るぞ!!という気持ちを高められるように雰囲気づくりをする。
11:25	5 神輿を担いで、プレイルームに移動する。 ●プレイルームに移動する。	・神輿を担ぐ位置を視覚的に示す。 ・教室前から事務室前まで神輿を担ぎ、方向転換をしてプレイルームまで戻ってくるまで神輿を協力して担ぐよう言葉かけを行う。
11:30	4 盆踊りをする。「エビカニクス音頭」	・教師が踊りの手本を示し、児童と一緒に盆踊りを行う。
11:35	6 お店屋さんをする。 ・準備を済ませ、BGMをスタートしてお店を開く。 ・自分の役割の場所でお客さんとやりとりをする。 ①お金受け取り係 ②ゲームの説明と手伝い係 ③プレゼント渡し係 ●ハッピを脱いで、教室に移動する。	・3名ずつの2つのグループに分かれて開店準備をするように促す。 ・お客さんとのやりとりで困っている児童がいるときにはヒントカード等を提示し、自分で考えてやりとりができるように促す。
11:50	7 振り返りをする。 ・振り返りを行い、今日の感想を発表する。	・今日の活動内容をふりかえり、次時の予告をする。 ・お客さんがニコニコになれていたか、思い出すことができるよう可能であれば本時の活動の写真を提示しながら振り返る。 ・活動を終えて、今の自分の気持ちや感想を言葉や絵カード等を使って伝えることができるように、必要に応じて言葉かけを行う。
11:55	8 おわりのあいさつをする。	・日直に号令をするよう促し、全員が姿勢を正してあいさつできるよう必要に応じて言葉かけを行う。

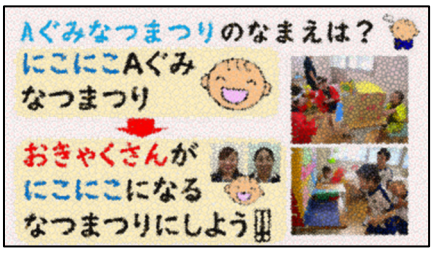


図14　授業導入のスライド

当日は多くの人が来店し，緊張して足が止まる児童もいたが，友達が活動し始めると，練習と同様に「いらっしゃいませ」と大きな声で言ったり，ボールやハンマーをお客に手渡したりするなど，自分の役割を果たすことができていた。

お客さんの様子をよく見て，お客さんに合わせてワニを出すスピードやタイミングを工夫する姿も見られた。

お祭りの後は，教室に戻って振り返りを行った。活動の様子の画像をタブレット端末で見ながら，児童の頑張りを一人一人確認した。また，お客さんの表情も画像で写し出し，「にこにこになっていたかな。」と児童と一緒に確認するようにした。みんなタブレット端末の前に寄ってきて，お客さんの表情を確認していた。

4. 考察

本単元を通して，実践目的に挙げた事項について考察を行った。

1点目の「児童の興味・関心があることを授業に取り入れていくための手立て」については，児童の資質・能力を育成する上でも，興味・関心を活動内容として取り入れていくことが有効であることが，改めて実感された。学習活動に興味・関心が取り入れられることにより，意欲的に活動に取り組むことができるだろうということは容易に予測できたことだが，さらに，教材や教師の指示に注意を向け続けることができたため，取り組むべきことが分かり，見通しをもって自分から活動し始める姿が見られた。

本研究では，児童の興味・関心のあることを授業に活かしていくためには，まず，児童の興味・関心の対象を丁寧に探っていくことが重要であると考えた。普段の様子を見る中でも，把握することはできていたものの，今回はカードを準備して調査したところ，教師が把握していなかった「好きなもの」を新たに発見することができ，装飾のモチーフにするなどの活用につなげることができた。

2点目の「授業テーマに関する児童のイメージを豊かに広げていくための手立て」については，まず，児童が授業テーマについてどのようなイメー

ジをもっているか把握することが重要であると考えた。そのイメージを出発点として，豊かに広がっていくような授業づくりを目指した。

本単元では，一般的な夏祭りのイメージを，画像等を用いて共有するとともに,昨年度の経験や,他クラスの夏祭りに参加した経験も丁寧に振り返った。自分の経験と，その中での「楽しかった」という気持ちと結び付けながら，夏祭りのイメージを広げることができたと考える。

各授業の活動の中では,「池から，わにが出てくるみたいにしたい。」や「もっとキラキラな看板にしたい。」という児童の発言があり，教師は,「テープを使いますか。」と案を出したり，光るシールを追加したりして，児童の思いが実現するような手立てを講じた。児童がイメージを豊かに広げながら工夫して活動に取り組むためには，まず，児童の思いやアイデアに耳を傾け，一緒に形にしていこうとする教師の姿勢が重要である。さらに，その時その時の，児童の思いやアイデアに対して，魅力的な材料を十分に準備したり，一緒に実現方法を考えたり，活動の時間を十分確保するなどの支援を行うことが重要である。そのような支援の下で，児童は自分の思いやアイデアを実現する活動に主体的に粘り強く取り組み，さらに工夫しようとすると考えられる。

3点目の「児童が自分のイメージや思いを基に，主体的に活動するための手立て」については，1点目とも関連するが，まず，児童の興味・関心を取り入れた授業づくりを行ったことが，児童が意欲をもって主体的に活動することにつながったと考える。「児童の興味や関心等に着目し，それを引き出しながら積極的に活用し，自主性を引き出そうとするストレングス視点からの働きかけが，児童の発達を促進する。」と論及されている（松山，2018)。普段は集団での活動に参加が難しい児童も，本単元ではみんなの中で主体的に活動する姿が多く見られたのも，このストレングス視点からの働きかけがあったからであると考える。

さらに，児童が考えて選択したり話し合ったりして，取り組む内容や方法を決めていくようにしたことも，授業作りを行う上で重要であったと考える。このことについては,「学習環境を児童の主体的な行動をもとに充実させることこそが重要であり，その結果として，児童にとって必要な展開やそれに伴う多様な学びが生まれる（髙橋･竹林地，2021)。」という論考に通じるものと考える。

児童の考えを引き出しながら次の授業につなげていくため，単元前の授業準備が難しい場合もある。そのため，すべての単元で取り入れることは難しいが，児童主体で活動内容を決定していくような単元を，年間を通して計画的に実施していくことが重要である。

また，教材・教具を工夫したことも，児童の主体的な活動を引き出す上で重要であった。興味・関心を引き出すような教材を準備することに加え，児童が自分でやりとげることができる補助具を準備したことも有効だった。「こうすれば，うまくいく」という経験を積み重ね,「できた。やり遂げた。」という達成感を味わうことができる授業の中で，活動へのさらなる意欲が育まれると考える。

本取組においては，人との関わりを充実させることも重視した。児童がお客さんを具体的に意識することができるように顔写真を準備したり，一人一人に作成した招待状を手渡したりした。また,「相手が喜ぶ」ということがイメージしやすいように,「にこにこ」というキーワードを提示しながら，活動の中のお客さんの笑顔を画像で確認するようにした。相手に喜んでもらう実感をもった児童が多く,「おみせやさん」で，わにの出し方を工夫したり，お客さんを応援したりする児童の姿が見られた。こうした状況については,「児童の意図に沿った適切な反応を返したり，さらに活動を発展させたりするような反応を得ることができると，相互交渉が維持される。」との報告があり（中村，他，2016),「相手のために，誰かのために頑張る」という思いをもてるようにすることも，児童が主体的に活動する手立てとして重要であると考えられる。

また，今回友達との関わりにも着目して支援を行った。「放課後等デイサービスの実践では，知的障害児のストレングスとして，思いやり，豊かな感性，丁寧さ，が上げられている。児童を取り巻く環境面のストレングスとしては，仲間や支援者の協力や支援が上げられており，仲間や職員との相互の交わりの中で本人のストレングスが高められている。」と主張されている（矢島，2012)。「児童同士が学校生活の中で学び合い育ちあいながら共に生き，障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善していけるような学校生活を作っていくことが大切である。」とも言及されている（早川，2019)。今後も，児童同士が関わり合い，助け合いながら取り組むことができるような活動を仕組んでいくことが重要であると考える。

本単元を進めていく中で，児童は「お家の人にもお客として参加してほしい」という思いを伝えてきた。そこで，後日，授業参観日に合わせて，保護者をお客とする夏祭りを行った。保護者からは「招待状を手渡してくれた。参加できてよかった。」「お店のことを身振りで伝えていた。」「家でも盆踊りの練習を頑張っていたので，学校でお祭りを楽しむ様子を見ることができてよかった。」などの意見が寄せられた。普段は家庭で「してもらう」ことの多い児童が，自信をもってお客の対応

をする様子を見て，我が子の成長を感じた保護者が多かった。

5. 結論

本実践研究では,「イメージを広げて表現する児童生徒の育成～好きなことから始めてみよう～」のテーマに迫る実践ができたと考える。ストレングス視点から,興味･関心を取り入れる有効性と,取り入れるために大切にしなければならないことを明らかにすることができたと考える。これからの授業づくりの大事な視点として，意識していきたい。

さらに，今回は児童一人一人の主体的で創造的な活動を引き出したと同時に，本学級の集団としての成長も感じ取ることができた。年度当初から,本学級では友達や教師と一緒に活動する場面を設定し,友達と協力することの大切さを伝えてきた。本単元では,「お客さんがにこにこになる夏祭りにしよう。」のめあてに向けて，どの児童も周りをよく見て，友達の頑張りに気付いて自分も頑張ろうとしたり，言葉を交わして協力し合ったりしていた。「友達と一緒にやり遂げたい。」「困っている友達がいたら助けたい。」という思いが育ったのではないかと考える。今後も，友達とより豊かな関係性を築くことができるような授業づくりを目指し,支援の在り方を明らかにしていきたい。

引用文献

早川 透(2019)知的障害特別支援学校における自立活動を問う:「障害による学習上又は生活上の困難の主体的改善・克服」をイメージする．教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要, 1, 149-158.

松山郁夫（2018）知的障害のある自閉スペクトラム症児へのストレングス視点からの支援．佐賀大学教育実践研究, 36, 9-18.

中村友美・川合紀宗・村上理絵・河口麻希・福本紘未（2016）知的障害のある自閉症スペクトラム障害児のピアグループの分析:相手による相互交渉の比較を通して．広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要, 14, 105-114.

髙橋 望・竹林地 毅（2021）知的障害のある児童の主体的な行動を促す生活単元学習の在り方：行事単元（劇づくり）の検討．広島大学大学院人間社会科学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要, 19, 61-69.

矢島雅子（2012）知的障害のある人のストレングスを高める支援―デイサービスの実践―．京都ノートルダム女子大学研究紀要, (42) 43-54.